

第一次産業の未来について



堀内 隆弘 議員

第一次産業の未来は、お世辞にも明るいものとは言えない状況である。滋賀県彦根市では、スマホを利用して、農業情報システムで集中管理する取り組みが行われ、新しく第一次産業に加わる若い人材でも難しくなく農業に従事できるようになってきている。このように、第一次産業に対して新しい取り組みが、さまざまな場所で行われている。千葉県南房総市では、水揚げ量の減少を食い止めるため「育てる漁業」の第一歩としてアワビ漁の輪採方式を取り入れている。水産振興部門で内閣総理大臣賞



漁協海士会による千葉県南房総市のアワビ漁輪採方式の視察

に輝くほどの評価を受け、牟岐両漁協海士会も視察に向かい、牟岐町でも取り入れようと活動していると聞いている。大手企業やNPO法人な

どが牟岐町で、このような活動をしてくれれば良いのだが、それを待っている時間は残されていない。やはり、既存の生産者や企業と協力し、共に第一次産業を守っていくべき。企業や生産者、会合などに参加している町職員からは、そのような声は上がっていないのか。また、第一次産業における生産者の高

齢化をふまえ、10年後の第一次産業の未来について、どのような考えを持っているのか。

【答】 福井町長

牟岐町の既存産業や企業を育成する取り組みを最優先すべきと考え、地方創生総合戦略計画の中でも、エコノミックガーデニングの創出に取り組むこととしている。この対象は商工業を始め全ての産業であり、適切な組織作りが必要である。

一次産業の振興については、国・県・町の事業として助成・技術指導・補助も実施している。事業者の要望に従い支援する形で参加しており、町が主体的に実施することは困難であると考えている。

一次産業を残していく必要があるが、意欲的な提案がない。したがって、一次産業を再生するには、これまでと違った大きな改革が必要であると考えている。

ふるさと納税の進展状況は

【答】 堀内議員

特産品の詳細が、なかなか集まってこないと聞いているがどのような状況か。

【答】 宮内総務課長

期限を過ぎても返礼品の提案が集まらなかったため、再度お願いした。現在、商工会所属の2店舗から6種

類、漁協から1種類、農協から2種類、合計9種類の返礼品の提案があった分をベースにカタログを作成し、ホームページへのアップロードを進めていきたいと考えている。今後も提案を受付して、返礼品の更新を進めたい。